

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	性機能障害研究の現在と未来
別タイトル	Present and future of sexual dysfunction research
作成者（著者）	中島, 耕一
公開者	東邦大学医学会
発行日	2024.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 71(1). p.1 1.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	巻頭言
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2023 055
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD08141139

性機能障害研究の現在と未来

中島 耕一

東邦大学医学部泌尿器科学講座（大森）

私どもの教室では伝統的に男性性機能の研究をひとつの柱にしています。先々代の教授である白井將文先生は、国際性機能学会の設立よりも早く本邦での勃起機能研究の研究會を立ち上げられたことはよく知られた事実と思います。当時は「インポテンス」という今では差別用語として学術的には使用されない用語を冠に掲げて研究をされており、そうでなくとも色物扱いされる雰囲気も多分にあり、相当なご苦労があったと伺っています。

現在は、1999年のシルデナフィル上市以降勃起障害（ED）は避けられない加齢現象ではなく、治療可能な疾患であるという啓蒙活動（商業ベースの啓蒙も大いに利用しましたが）のおかげで、勃起障害も何やらおしゃれな響きさえも醸し出している「ED」という言葉が定着して、勃起のみならず性に関する議論そのものがかなりopenになってきたと思います。それは、癌治療領域におけるAYA世代を含めたcancer survivorsの性機能にも関心が及んできた点や少子化対策として勃起障害を原因とした不妊治療として昨年4月からPDE5阻害剤が保険適用となったことから言えると思います。現在勃起現象については生理学的にも解剖学的にも（特に末梢において）基本原理の部分はかなり解明されてきたと思います。その結果としてNO-cGMP系を介したPDE5阻害剤やcAMP系を介したPGE1による薬物治療が確立されてきました。また外科治療においては陰茎移植も始まっております。これは単なる陰茎だけのつなぎ替えではなく、周囲の神経血管も含めた複合組織としての移植で、2023年現在南アフリカ、米国、中国で延べ7例の報告があります。このうち成功第1例目の南アの症例では妊娠出産にまで至ったとの報告がなされています。ED研究の目的や意義も、当初の男性が本来備えている機能の回復を主眼としていたものから、人生100年時代と呼ばれる長寿社会における男性の健康維持を通じて社会貢献を果たすということに変貌を遂げてきております。性（生活）は男性のみで完成するものではなく当然女

性側の問題も解決しなければならず、昨今は女性性機能に関する研究にも光が当たりつつあります。ただこうした考えは、依然として挿入を伴わなくともintimacyやskinshipなどの行動療法を含めて男女の交流をベースとした対応策といえます。

ところで星新一のショートショートの永遠の青春では性欲は悪として駆逐され、人間も社会的には中性化して、生殖はすべてART（assisted reproductive technology：生殖補助医療）による社会像やシルベスタスタローン主演の映画（Demolition Man）では2036年を舞台とした完全無菌社会で人間同士の体液の交換が不潔として忌み嫌われている社会像が描かれるなど、今話題のLGBT-Qどころではない未来像も想像されています。LGBTはまだ対象が誰であれ人と向き合っている訳ですが、社会生活の効率化を求める結果なのか人間が皆中性化してしまい生殖行為さえも放棄するような社会が本当に訪れたとすると男性における勃起機能は、体脂肪測定がごとく単なる健康のパロメータとして認識されるか、あるいはmorning erectionを指標にした体内時計に基づく単なる生理現象と認識されることになるのでしょうか。その時にあっては、現在の研究はすべて過去の遺物になってしまうかもしれません。しかし今のところ毎年件数が増えている前立腺全摘術などによる医原性EDへの対応が十分成績を上げていない点や血管性EDについての確立した外科治療法が確立していない点、また中枢においてはD2レセプターを介した系やNMDA-cGMP系などを利用した薬物治療の開発が試みられたりしているものの勃起に伴う脳機能はまだ十分に解明されていない点など不明な点も多々あります。2036年はそう遠くない未来ですが、小生が現役のうちはまだまだ意義のある研究領域だと思っています。性機能障害研究の目的はあくまでTo keep the wellbeing of a life, To manage personal health and wellnessです。

DOI: 10.14994/tohoigaku.2023-055